

全盲女性 暮らし紹介

守山区社協、料理や体験談など

生まれつき弱視で、三十代で全盲になった守山区小幡南三の主婦寺西美予さん(四八)が十五日、同区小幡南一の区社会福祉協議会で、市民四十人を前に、日常生活のできることやできないことを語った。

(塚田真裕)

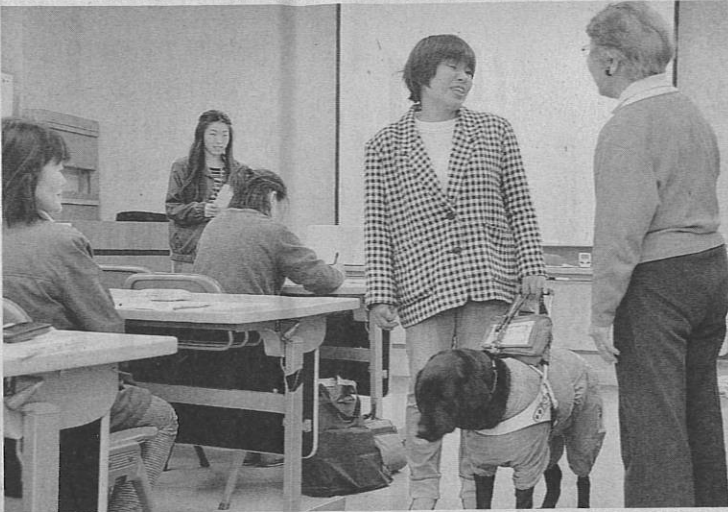
障害者とともに暮らす街づくりを目指し、社協が「世界が広がるちよっといいお話会」と題し、企画した。来年一月まで全六回を開き、今回は初回。

寺西さんはジャガイモの皮むきを披露。「触覚を利用すれば、たいていの料理はできる」とすいすいと皮をむいて見せた。飲み物をコップに注ぐときには音と重さに注意するという。「脂分が含まれる牛乳はコップにたまる音が静かで難しい」と語った。小学校

などで朗読ボランティアもしており、健常者に絵本を読んでもらい、点字を付ける作業も実演した。

寺西さんは電車に乗

った時「広げたおじさんの脚の間に座ってしまった」というエピソードを披露。「空席の背もたれを手で触れるよう導いてくれるとありがたい」と話した。「目の見えない人に会ったら『こんにちは、何かお困りのことはないですか』と気軽に声を掛けて」と呼び掛けた。



街で出会った時の声の掛け方について参加者と実演する寺西さん(右から二人目)＝守山区小幡南一の区社協で



会場に並ぶ卒業生たちの水墨画作品＝中区栄1の市民ギャラリー栄で

水墨画の力作ずらり

鯉城学園卒業生 中区で作品展

六十歳以上の市民が日まで。入場無料。学ぶ市高年大学鯉城学園(中区栄一)の卒業生二回、同学園で開かれる「水墨画愛好会作品展」が、中区栄一、ハスやヒガンバナ、風景画など淡い筆で開かれている。十七